

安森敏隆教授 略歴 主要著書・論文目録

略歴

一九四二年一月六日 広島県三次市に生まれる

学歴

一九六〇年 三月 広島県立三次高等学校卒業

一九六〇年 四月 立命館大学文学部日本文学専攻入学

一九六四年 三月 立命館大学文学部日本文学専攻卒業

一九六四年 四月 立命館大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程入学

一九六八年 三月 立命館大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了（文学修士）

職歴および研究歴

一九七〇年 四月 平安女学院高等学校教諭

一九七二年 四月 宇部短期大学講師

一九七五年 四月 宇部短期大学助教授

一九七七年 四月 梅光女学院大学短期大学部助教授

一九七八年 四月 梅光女学院大学助教授

一九八二年 四月 梅光女学院大学学生部長（一九八六年三月まで）

一九八四年 四月 梅光女学院大学教授

一九八四年 四月 梅光女学院大学文学部長（一九八六年三月まで）

一九八八年 四月 同志社女子大学短期大学教授

一九八九年 四月 同志社女子大学教授

一九九七年 四月 同志社女子大学宗教部長（一九九九年九月まで）

一九九九年 六月 立命館大学より博士（文学）を授与される

二〇〇七年 四月 同志社女子大学特任教授

二〇一二年 四月 同志社女子大学名誉教授

〔学大会活動〕

一九九四年 四月 昭和文学会幹事（二〇〇〇年三月まで）

一九九八年 四月 日本キリスト教文学会 関西支部幹事

二〇〇三年 四月 日本近代文学会 関西支部評議委員（二〇一〇年三月まで）

二〇〇七年 四月 全国大学国語国文学会 評議委員

二〇一〇年 四月 ポトナム代表

研究業績

〔単著〕

一九七八年 『斎藤茂吉幻想論』

一九七九年 『沈黙の塩』（歌集）

（桜楓社）

（新風土社）

一九七八年 三月

一九七九年 四月

一九八〇年 『現代短歌講義ノート』

(異境出版局)

一九八〇年 四月

一九八三年 『抒情の軌跡』

(書肆季節社)

一九八三年一〇月

一九八七年 『創造的塚本邦雄論』

(而立書房)

一九八七年 七月

一九八九年 『幻想の視角——斎藤茂吉と塚本邦雄』

(双文社出版)

一九八九年二月

一九九六年 『わが大和、わがシオン』(歌集)

(書肆季節社)

一九九六年 四月

一九九八年 『斎藤茂吉短歌研究』

(世界思想社)

一九九八年 四月

一九九九年 『風呂で読む 短歌入門』

(世界思想社)

一九九九年 四月

二〇〇一年 『新島襄の短歌——和歌的発想と短歌的発想』

(学校法人 同志社)

一九九九年一〇月

二〇〇一年 『大学教授の介護日記 介護・男のうた365日』

(新葉館出版)

二〇〇一年一月

二〇〇八年 『百卒長』(歌集)

(青磁社)

二〇〇八年一〇月

〔共編著〕

一九七八年 『文学における夢』

(共著 笠間書院)

一九七八年 四月

一九七九年 『文学における宗教』

(共著 笠間書院)

一九七九年 四月

一九八〇年 『日本文学の重層性』

(共著 桜楓社)

一九八〇年 四月

一九八一年 『塚本邦雄論集成』 I

(共著 湯川書房)

一九八一年一〇月

『鑑賞日本現代文学』⑨ 斎藤茂吉

(解説 角川書店)

一九八一年一〇月

『方法としての詩歌』

(共著 笠間書院)

一九八一年一月

一九八三年 『日本文学——伝統と近代』

(共著 和泉書院)

一九八三年二月

一九八四年 『和歌文学とその周辺』

(共著 桜楓社)

一九八四年 一月

- | | | | |
|-------|--------------------|-------------------|----------|
| 一九八六年 | 『文学における母と子』 | (共著 笠間書院) | 一九八四年 六月 |
| | 『文学における身体』 | (共著 笠間書院) | 一九八四年二月 |
| | 『事実と虚構』 | (共著 笠間書院) | 一九八六年 六月 |
| 一九八七年 | 『文学における家族』 | (共著 笠間書院) | 一九八七年 九月 |
| 一九九二年 | 『日本文学と人間の発見』 | (共編 世界思想社) | 一九九二年 四月 |
| | 『昭和作家のクロノボトス——中島敦』 | (共著 双文社出版) | 一九九二年一月 |
| 一九九三年 | 『竹下夢二文学館』第六卷 | (解説 日本図書センター) | 一九九三年二月 |
| | 『竹下夢二文学館』第七卷 | (解説 日本図書センター) | 一九九三年二月 |
| 一九九四年 | 『現代の短歌』 | (共著 勉誠社) | 一九九四年 一月 |
| | 『森鷗外を学ぶ人のために』 | (共著 世界思想社) | 一九九四年 二月 |
| | 『斎藤茂吉二百首』 | (共著 短歌新聞社) | 一九九四年一月 |
| 一九九五年 | 『与謝野晶子を学ぶ人のために』 | (共著 世界思想社) | 一九九五年 五月 |
| | 『漱石——作品の誕生』 | (共編 世界思想社) | 一九九五年一〇月 |
| 一九九六年 | 『文学における死生観』 | (共著 笠間書院) | 一九九六年 二月 |
| 一九九七年 | 『近代短歌と現代短歌』 | (共編 双文社出版) | 一九九七年 三月 |
| 一九九八年 | 『近代短歌を学ぶ人のために』 | (共編 世界思想社) | 一九九八年 五月 |
| | 『平安のうた 今のうた』 | (共著 社団法人紫式部顕彰会) | 一九九八年 一月 |
| 一九九九年 | 『近代の短歌を読む』 | (共著 立命館大学人文科学研究所) | 一九九九年 三月 |
| | 『明治文芸館』Ⅱ | (共著 嵯峨野書院) | 一九九九年 七月 |

- 二〇〇〇年 『歌われた風景』 (共著 笠間書院) 二〇〇〇年 一月
- 『独断の栄耀——聖書見ザルハ遺恨ノ事』 (共著 葉文館出版) 二〇〇〇年 五月
- 二〇〇二年 『介護うたあわせ 介護・女と男の25章』 (共編 京都修学社) 二〇〇二年 一月
- 『キリスト教文学を学ぶ人のために』 (共編 世界思想社) 二〇〇二年 九月
- 二〇〇三年 『和田周三全歌集』 (解説 短歌新聞社) 二〇〇三年 五月
- 二〇〇四年 『小泉芝三全歌集』 (解説 短歌新聞社) 二〇〇四年 四月
- 『論集 石川啄木』 II (共著 おうふう) 二〇〇四年 一月
- 『菱川善夫論集』 (共著 沖積社) 二〇〇四年 一月
- 二〇〇五年 『明治芸芸館』 V (共著 嵯峨野書院) 二〇〇五年 一月
- 二〇〇七年 『二〇世紀女性文学を学ぶ人のために』 (共編 世界思想社) 二〇〇七年 二月
- 二〇〇八年 『NHK福祉ネットワーク 介護百人一首』 (共著 NHK出版) 二〇〇六年 一月
- 『展望 現代の詩歌』 第八卷 (共著 明治書院) 二〇〇八年 一月
- 『新しい短歌鑑賞 正岡子規・斎藤茂吉』 (共編 晃洋書房) 二〇〇八年 四月
- 『新しい短歌鑑賞 ポトナムの歌人』 (共編 晃洋書房) 二〇〇八年 一月
- 二〇一〇年 『わたしの介護ノート』 ② (共著 中央公論社) 二〇一〇年 五月
- 【事典】
- 一九八八年 『日本名歌集成』 (共著 学燈社) 一九八八年 一月
- 一九九二年 『作家研究大事典』 (共著 桜楓社) 一九九二年 九月
- 一九九四年 『キリスト教文学事典』 (共著 教文館) 一九九四年 三月

- 『日本現代文学大事典(作品篇)』
一九九七年 『短歌名言辞典』
一九九九年 『現代短歌ハンドブック』
『岩波 現代短歌辞典』
二〇〇〇年 『現代短歌事典』
二〇〇一年 『石川啄木事典』
二〇〇五年 『大阪近代文学事典』
二〇〇八年 『滋賀近代文学事典』
二〇一二年 『兵庫近代文学事典』
- 〔學術論文〕
一九六六年 「茂吉における〈生〉の位相」
一九七三年 「創作行為と批評行為」
一九八二年 「石樽千亦論」
一九八六年 「斎藤茂吉における写生と幻想」
一九九一年 「〈詠〉むことと〈読〉まれること」
一九九四年 「裝飾楽句論」
一九九六年 「漱石と子規の写生」
二〇〇四年 「キリスト教文学と『邪宗門』」
- 〔共著 明治書院〕
一九九四年一〇月
一九九七年一〇月
一九九九年一二月
一九九九年一二月
二〇〇四年七月
二〇〇一年九月
二〇〇五年五月
二〇〇八年一月
二〇一一年一〇月
- 〔共著 東京書籍〕
〔共著 雄山閣〕
〔共著 岩波書店〕
〔共著 三省堂〕
〔共著 おうふう〕
〔共著 和泉書院〕
〔共著 和泉書院〕
〔共著 和泉書院〕
- 〔日本文学〕(日文協)
〔論究 日本文学〕(立命館大学)
「心の花 一〇〇〇号記念号」(竹柏会)
〔国語と国文学〕(東京大学)
〔日本近代文学〕(近代文学会)
〔キリスト教文芸〕(日本キリスト教文学会)
〔漱石研究〕(漱石研究会)
〔総合文化研究所紀〕(同志社女子大学)
- 一九六六年 四月
一九七三年 三月
一九八二年 三月
一九八六年 五月
一九九一年一〇月
一九九四年 六月
一九九七年 一月
二〇〇四年 一月

- 二〇〇六年 「国崎望久太郎論——『近代短歌史』を中心にして」 「日本語日本文学」(同志社女子大学) 二〇〇六年 一月
- 二〇一一年 「歌の命と力」 「文学・語学」(全国大学国語国文学会) 二〇一一年 四月
- 〔その他〕
- 一九八九年 「京都短歌」(朝日新聞京都版) 選者 一九八九年 六月
- 一九九八年 「城崎百人一首」(城崎文芸館) 選者 一九九八年一〇月
- 二〇〇三年 「城崎百人一句」(城崎文芸館) 選者 二〇〇三年一〇月
- 二〇〇四年 「曲水の宴」(城南宮) 出演 二〇〇四年一月
- 二〇〇六年 「NHK介護百人一首」(NHK教育テレビ) 代表選者 二〇〇六年 二月